

あすの淡海

自然と人との共生をめざして

VOL.

48

2024 冬号

ツマラン管実験
やっています!

トイレに流して良いもの悪いもの

淡海環境保全財団



淡海環境プラザってどんなところ ～展示リニューアル進行中～

水環境をはじめ様々な環境問題を楽しく学べるところです

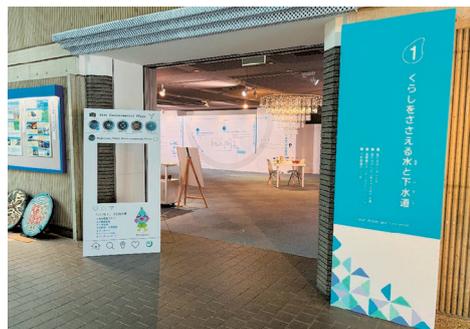
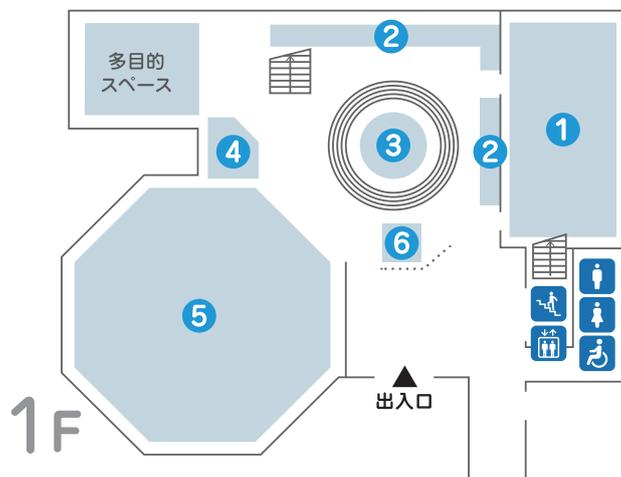
滋賀県では、琵琶湖の水環境保全のために、県内全ての下水処理場で、富栄養化の原因となる窒素やリンを除去する「高度処理」を実施されています。

淡海環境プラザは、こうした下水道事業運営の実績と高い技術を背景として、①さらに効率的な下水処理の実現②経験と技術の継承③海外等における水環境保全への貢献④民間企業等の水環境ビジネス支援による地域活性化を目的に2013年4月開設され、当財団が管理運営を行っています。

プラザの1階では、下水道の新技术開発や普及啓発の展示を行ってきましたが、開設から10年が経過し、琵琶湖や地球環境を取り巻く状況も大きく変化してきたことから、下水処理以外にも資源循環や地球温暖化、生物多様性保全などの環境問題を楽しく学べる展示となるようリニューアルされているところです。

昨年度は、小学生とその保護者を対象に「水環境体験学習ツアーin帰帆島」が県の主催で開催されました。ツアーは当財団が企画運営し、湖南中部浄化センター見学等の下水処理学習に加えて地球温暖化防止、琵琶湖のヨシ原の働きなど、環境問題について幅広く学んでいただきました。当財団では、展示のリニューアルと併せて、このようなソフト事業の充実にも力を入れています。

プラザには小学生の校外学習や大学、企業、自治体等関係者が多く来館されています。開館は平日のみで、どなたでも来館できます。また、滋賀県流域下水道のマンホールカードも配布していますので、ぜひ一度お越しください。



① 暮らしをささえる水と下水道



私たちの暮らしになくてはならない水の大切さや、水をきれいにする下水道の役割について、考えながら学べます。

② 水でつながる滋賀の環境



暮らしを支える大切な水源である「びわ湖」に関わる様々な環境問題（気候変動、ごみ問題など）について学べます。

③ びわ湖を未来へ



「びわ湖」に関わる様々な環境問題に対して、私たちが普段の生活の中からできることをMLGs(マザーレイクゴールズ)*をもとに考えるエリアです。

④ びわ湖を調べる



国立環境研究所琵琶湖分室で取り組まれている、びわ湖とその生態系の保全再生に向けた研究内容を紹介しています。

⑤ 水環境技術展示



下水道に関する企業の技術開発や、大学の研究活動、海外における取組み内容を企業ごとに展示しています。

⑥ 木とふれあうコーナー



県産木材(びわ湖材)を使用したおもちゃで遊べるコーナーです。暮らしと森と琵琶湖のつながりを理解し、豊かな心を育む木育の取組みです。

※マザーレイクゴールズ(MLGs)

「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能社会への目標(ゴール)であり、「琵琶湖版のSDGs」です。

この人に聞く



一般社団法人
ビワコパールサプライズ
代表理事

ひろせ かのり
廣瀬 香織さん

琵琶湖では、約90年前から淡水真珠の養殖が行われ、1960年代後半から1970年代には海外でも人気があり最盛期を迎えました。しかし、1980年代後半から琵琶湖の水質の悪化や安価な海外産真珠の流入により、養殖業者が減少し、今では数軒しか残っていません。

(一社)ビワコパールサプライズは、地元守山市の漁業協同組合と連携し「びわ湖パール」を通して、より多くの人々が琵琶湖の環境保全に関わることができる仕組みをつくられています。その代表理事である廣瀬香織さんにお話をお聞きしました。

一 滋賀県にどのような印象をお持ちですか。

廣瀬さん 神戸育ちで、京都で学生生活を送っていた時、野球部のマネージャーをしていて試合で守山の球場に来ていました。滋賀って琵琶湖が真ん中であって、自然が豊かで子育て環境が良いので、結婚を機に滋賀に移住し、子育ての地に守山市を選びました。今では、ここを拠点に活動の幅が広がっています。

一 近年の琵琶湖のようすについて、どのように感じておられますか。

廣瀬さん 琵琶湖を目の前で見たら思っていたより汚れていることと、綺麗なところで育つものと思っていた真珠が水深が浅くて生活圏に近いところで養殖されていることに衝撃を受けました。赤野井湾で漁協等が定期的に掃除をされているのですが、毎回大量のゴミが出てきて驚きます。県内のどこでゴミを捨てても琵琶湖に流れ着くことを目の当たりにしました。

また、季節によっても全然違います。水草の繁茂、水温が高くなったり、水位が低くなったり琵琶湖に様々な変化が起きていることを実感しています。

一 「びわ湖パール」の特徴を教えてください。

廣瀬さん パールといえば、海水で育つアコヤガイの真珠を想像されますが、びわ湖パールは、イケチョウガイで作られる淡水真珠です。アコヤガイは芯を入れて1年位育てて、そこに真珠層を巻かせる有核真珠で丸く作ります。一方、淡水真珠は違う貝から取った「細胞核」を入れる無核真珠で、全部真珠層になるように育てます。貝の幼生から核入れできるまでに3年、核入れをして3年、計6年ぐらいかけて育てます。

海水真珠は色やサイズを揃えて綺麗に連ねることが多いですが、びわ湖パールは芯を入れてないので、いろんな形でできてくる。また、貝の中の色が違うので、色も白の他、ピンクやオレンジ、グレーなど、1粒ずつ形や色が異なり唯一無二なのが特徴です。

一 「びわ湖パール」とは、いつ出会いましたか。

廣瀬さん 2018年に地域情報誌の取材をしたのが最初です。朽ち果てた養殖場など、産業が衰退している中でしたが、実際に貝を開いて出てきた真珠はいろいろな色や形をしていて輝き、「とてもきれいだ」と感動しました。50年前の真珠の養殖が栄えていた頃と比べると、貝を育てる環境は在来種の魚の減少や藻の繁茂などにより相当厳しくなっていますが、この先誰がどうしていくのか心配になりました。



核入れのガイドをする
廣瀬さん(右)

一 これを残すために、現在行われている活動はどのようなものですか。

廣瀬さん 2019年に「真珠貝オーナー制度」を開始しました。これは、漁協で3年間育てた貝の中から好きな貝を選んで核入れをしてもらって、3年間琵琶湖の養殖筏でお預かりした後に、自分で貝開きと真珠の取り出しを体験してもらう制度です。アクセサリーへの加工もお手伝いしています。

一 このオーナー制度は琵琶湖の環境保全に関心をもってもらえるきっかけにもなりますね。

廣瀬さん これに参加した人は「3年間、琵琶湖のことを常に気にかけていました」と言われます。自分の真珠が琵琶湖にあることで、関心が高くなると思っています。

また、パールを身につけることで、その後も継続して琵琶湖のことを思ってくださいるので、より多くの人々がオーナーになってほしいと思います。

一 「ビワコパールサプライズ」の名称の由来をお聞かせください。

廣瀬さん この名の由来は、私が取材で初めて貝を開けてパールが出てくるところを見せてもらったとき、こんな風に出てくるのか、この真珠って驚きだなと思いました。プレゼントされるサプライズ、琵琶湖でとれたんだという驚きなどがあり、サプライズっていい言葉だと思って名付けました。

一 環境保全活動を継続するカギはなんだと思いますか。

廣瀬さん 環境保全活動を続けるには、楽しくオシャレに取り組むことだと思います。

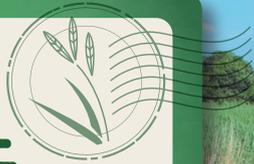
びわ湖パールは、びわこビジターズビューローさんでも取り上げてもらって、観光の視点とあわせて環境のお話ができるのがいいと思います。観光と環境をつないで、滋賀県らしく活動できればいいですね。

一 今後の夢をお聞かせください。

廣瀬さん 「びわ湖パール博物館」をつくりたいです。また、琵琶湖の話を楽しめばほど、他の湖のことにも関心を持つようになりました。最近いろいろな湖を訪問していて、霞ヶ浦には移植されたイケチョウガイが残っているようで、見に行こうと思っています。いつか琵琶湖畔で、それぞれの湖における活動の事例や展開を語れる場である、湖と湖をつなぐ会合「湖と湖とサミット」を開催したいと思っています。

淡海 ヨシ紀行

～淡海の原風景を訪ねて



第3回 西の湖(近江八幡市) -後編-

西の湖ではヨシを産業用に利用するため、伝統的な方法により集約的な生産が行われ、色つやが良く、シミのない通直で長いヨシが採れるようになりました。

西の湖の伝統的なヨシの生産方法を見てみましょう。「刈り初め」は初刈りしたヨシ3束を三脚状に立て、稲に見立てて豊作を願い、神の依り代として祀りました。ヨシ刈りは近隣から雇われた「刈り子さん」が手作業で行います。普段は農作業に従事し、時期になるとヨシの作業を行うなど、農業とヨシ生産のサイクルがうまく回っていました。

刈取りが終わると、ヨシを休眠から覚醒させ、害虫や雑草からヨシを守り、灰を肥料にするため「ヨシ地焼き」が行われます。

この後、刈束を田船に積み、選別のために葭場へ運ぶ「ヨシ引き」、刈束を円錐状に立てかけて自然乾燥させる「丸立て」、ケンザオで長さを測り仕分けをする「団抜き」等の作業が続き、すべてのヨシを倉庫に納めて慰労する「葭仕舞い」で全工程が完了します。

西の湖周辺では屋根をヨシで葺くことも多く、戦前の丸山町の家屋の3分の1がヨシ葺で、葺替は集落総出で手伝う「結」により行いました。

近江八幡市の日牟禮八幡宮では、氏子十二郷の祭礼として八幡祭が行われ、4月14日の松明祭ではヨシが松明の主材料として使用されます。3月の左義長と4月の八幡祭をあわせて「日牟禮八幡宮の火祭」として県選択無形民俗文化財に、また、周辺の神社で行われる小祭も含めて「近江八幡の火祭」として国選択無形民俗文化財に指定されています。

伝統的な生産方法とヨシ葺や祭など、生業・暮らし・文化に深く関わってきた西の湖のヨシですが、ヨシ産業の低迷によりヨシ地の管理が不十分となり、市民、保全団体、企業などがヨシ刈りなどの活動を行っています。ヨシ産業の振興と多様な主体の参加による保全活動を両輪で進めることにより、西の湖の優れたヨシ群落が次世代に引き継がれることが望めます。



丸山町のヨシ業者

滋賀県 地球温暖化防止 活動推進員 リレートーク



岡 明子さん
近江八幡市在住

今回は自らエコなライフスタイルを実践され、経験と知識に裏打ちされた言葉で“未来を担う子どもたち”に響く温暖化防止出前講座をされている、はつらつ笑顔が印象的なこの方です!

友人からの紹介で推進員を知りました。自然に寄り添う循環する暮らしを広め、子ども達の育ちをサポートするという私の活動軸にマッチしたものにすぐに応募しました。

年齢やバックグラウンドの異なる推進員の方々との出会いは私の財産です。皆さんそれぞれ得意分野をお持ちの魅力的な方ばかりです。また、私の都合を聞きながら、いつも素晴らしい機会を提供して下さるセンターさんにも感謝しています。

ある小学校での出前講座の後のこと。朝の登校時にいつも親に車で送ってもらっている男子児童が、急に徒歩で通学し始めました。講座で印象に残ったこととして『車はCO₂を出す』と書いてくれていたことを思い出しました。

このように、子ども達の反応を直に見られたり、行動変容のきっかけを作れることが何よりのやりがいです。



うみのご乗船事前学習で琵琶湖と暮らしのつながりを伝える岡さん

地球温暖化防止活動推進員は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、知事から委嘱され、温暖化防止にかかる普及啓発を行われています。

「淡海ヨシみらいフォーラム」を開催しました

ヨシの保全、活用、啓発、研究などの活動に取り組む多様な主体が一堂に会し、情報交換や交流を図るため、令和6年3月に淡海ヨシのみらいを考える会議を発足させました。その最初の取組みとして、10月18日（金）に大津市民会館で「淡海ヨシみらいフォーラム」を開催しました。

ヨシ群落の保全やヨシの利用をめぐる様々な課題があり、それらの解決を図るとともに、取組みを発展させていくためには、それぞれの主体が単独で活動するだけでなく、多様な主体が互いに情報を共有しながら、連携や協力を進めていくことが重要です。今回のフォーラムでは「ヨシの保全と活用における連携の可能性」をテーマに議論を展開しました。

第1部では、ヨシ群落の保全や啓発活動を行う団体、ヨシ群落をフィールドに生物の生息環境を研究する機関、琵琶湖でヨシを活用した体験学習を行う企業など6団体から、それぞれの取組みの現状や成果、今後の課題や展望などについて事例発表がありました。



情報交換会

第2部の情報交換会では、活動紹介のパネル、ヨシに関する物品、チラシやパンフレットなどを6団体がブースで展示を行いました。それぞれの展示ブース前や会場内の各所では参加者の輪が見られ、情報交換や交流が盛んに行われました。

第3部のディスカッションでは、龍谷大学社会学部教授の脇田健一氏にコーディネーターを、また、京都大学大学院地球環境学堂准教授の深町加津枝氏にコメントーターを務めていただき、パネラーと会場が一体となって活発な意見交換が行われました。

参加者アンケートの結果によると、「有益な情報が得られた」、「多くの方との情報交換や交流により関係作りができた」など好意的な意見が多数を占め、今後に向けて「連携の可能性」が実感できるフォーラムになりました。



淡海ヨシみらいフォーラム

イベントレポート

「しがわーくフェスタ2024」に出展しました

11月3日（日・祝）、草津市のYMITアリーナにおいて「しがわーくフェスタ2024」（滋賀県中小企業青年中央会・滋賀県中小企業団体中央会主催）が開催され、家族連れなど多くの方が来場されました。これは県内の様々な仕事を親子で楽しみながら体験できるイベントで、当財団は「地球にやさしいのはどっち？お買い物ゲーム」により、皆さんに買い物の際の選択の重要性を伝えました。また、子どもさんに地球温暖化防止活動推進センターの黄色いビブスを着てもらい啓発活動を行う「スタッフ体験」をしていただきました。

多くの子どもさんは自分の家族に対し啓発活動をされていました。スタッフ役の子どもさん



さんが得意そうに「ピンポン！」と音を鳴らすと、「そうなんや、初めて知ったわ」という保護者の声など、子どもさんの様子を見て、その成長を実感されている保護者の姿が印象的でした。

子どもにゲームに参加してもらうことが大人への啓発になること、そして自分が知ったことを他の人に伝えることでより理解が深まることを実践するイベントとなりました。今後もあらゆる機会を捉えて楽しみながら地球温暖化防止の学習につながる活動を展開したいと思います。



「けんせつみらいフェスタ」で下水道をPRしました

10月12日（土）晴天のもと、希望が丘文化公園で「第10回けんせつみらいフェスタ」（滋賀県建設産業魅力アップ実行委員会主催）が開催され、過去最高の約5千人が来場されました。

当財団は、下水道に関するパネル展示やオリジナルマンホール缶バッジ作成、下水道工事ゲームなどが楽しめるブースを県下水道課と一緒に出品し、約350人に来場いただきました。

来場者の中には、マンホールの必要性を説明する小学生がいたり、下水道管施工の専門的な質問をする方がいたり、さすが建設業イベントの来場者だと思いました。



「淡海ヨシ紙製品」価格改定のお知らせ

「淡海ヨシ紙製品」については、原油価格の高騰、人件費や運送費等の上昇、それらに起因する原材料や加工費などの上昇により、令和7年(2025年)4月1日から価格を改定させていただきます。ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

製品の価格についてはホームページをご覧ください

製品名	入数	旧単価(税込)	新単価(税込)
A4用紙最厚口	10枚	545円	697円
A4用紙最厚口	100枚	4,921円	5,954円
A4用紙厚口	10枚	293円	375円
A4用紙厚口	100枚	2,410円	2,916円
一筆箋	1冊	367円	469円

イベント情報 1-3月

最新情報は財団ホームページをご覧ください。

開催日		時間	場所	アナログ	デジタル
12/1(日)～1月末頃			JR米原駅 東口2階	—	○
1/6(月)～1/14(火)		*平日のみ	滋賀県庁 2F 新館-本館連絡通路	○	—
1/15(水)～1/31(金)		店舗の営業時間に準ずる *最終日は15:00まで	アル・プラザ草津 2F ヤシの木広場	○	—
2/3(月)～2/13(木)		*平日のみ	淡海環境プラザ	○	○
2/14(金)～2/19(水)		*最終日は15:00まで	さざなみタウン 1F (長浜市高田町12-34)	○	○

地球温暖化防止

「デコ活」

啓発ポスター入賞作品展

アナログ

アナログポスター部門(紙)
入賞作品12点の展示

デジタル

デジタルポスター部門
入賞作品2点の展示

水草たい肥配布

琵琶湖の南湖を中心に繁茂する水草をたい肥にして、登録モニターの皆さん(配布当日の登録可)に無料配布します。今年度から甲賀市内でも配布します。各日、たい肥がなくなり次第終了します。

日程	時間	場所	住所
3/1(土)	10:00 ～ 14:00	高島市 近江今津駅南側市有地	高島市今津町今津
3/2(日)		守山市 地球市民の森つどいのゾーン 駐車場	守山市今浜町
3/8(土)		彦根市 彦根港北側	彦根市松原町
3/9(日)		長浜市 長浜北高校跡地	長浜市山階町
3/15(土)		甲賀市 滋賀県甲賀合同庁舎職員駐車場	甲賀市水口町水口
3/16(日)		近江八幡市 安土総合支所職員駐車場	近江八幡市安土町小中
3/20(木祝)		大津市 びわこ競艇場第一駐車場	大津市皇子が丘

ご寄附をいただきました(三和産業株式会社様)

三和産業株式会社様は、社会の安全安心を守るコンクリート製品を製造されており、自然環境や生物多様性の保全にも熱心に取り組まれています。

今年も、当財団の公益目的事業に対し寄附金を頂戴しました。過日、当財団理事長高木浩文から同社代表取締役の葉名宏幸様に感謝状を贈り、お礼を申し上げました。



編集後記

当センターで実施している、地球温暖化防止ポスター募集事業も8年目となりました。環境省の国民運動「クールチョイス」が「デコ活」に移行したのにあわせ、募集タイトルも変更になる中、年を重ねるごとに学校の先生方や児童生徒の皆さんのご理解が進み、具体的な行動を促す作品が集まっていると実感しています。12月から県内各地で入賞作品展を巡回開催中です。ぜひ実物を見にお越しください。

あすの淡海 VOL. 48 | 2024 冬号 (年4回発行)

発行

公益財団法人 淡海環境保全財団
〒525-0066 滋賀県草津市矢橋町字帰帆2108番地
TEL : 077-569-5301
FAX : 077-569-5304
E-mail : info@ohmi.or.jp

滋賀県地球温暖化防止活動推進センター

TEL : 077-569-5301 FAX : 077-569-5304
E-mail : ondanka@ohmi.or.jp

淡海環境プラザ

TEL : 077-569-5306 FAX : 077-569-5334
E-mail : plaza@ohmi.or.jp



- 用紙:再生紙を使用
- インキ:環境配慮型インキ(植物油インキ)